

飼料用トウモロコシ栽培の効果的な除草剤処理方法

【1 成果の概要】

- (1)今回調査した土壤処理剤では、除草効果と土壤水分率との関係は見られません。
- (2)ジメテナミド・リニュロン（エコトップ乳剤）、アラクロール・リニュロン（ラクサー乳剤）は、広葉雑草、イネ科雑草両方に高い除草効果があります（図1）。
- (3)茎葉兼土壤処理剤であるアトラジン・メトラクロール（ゲザノンフロアブル）、アトラジン（ゲザプリムフロアブル）は、とうもろこしの出芽前～4葉期までの間に散布すると、広葉雑草主体の圃場で除草効果があります（表1）。

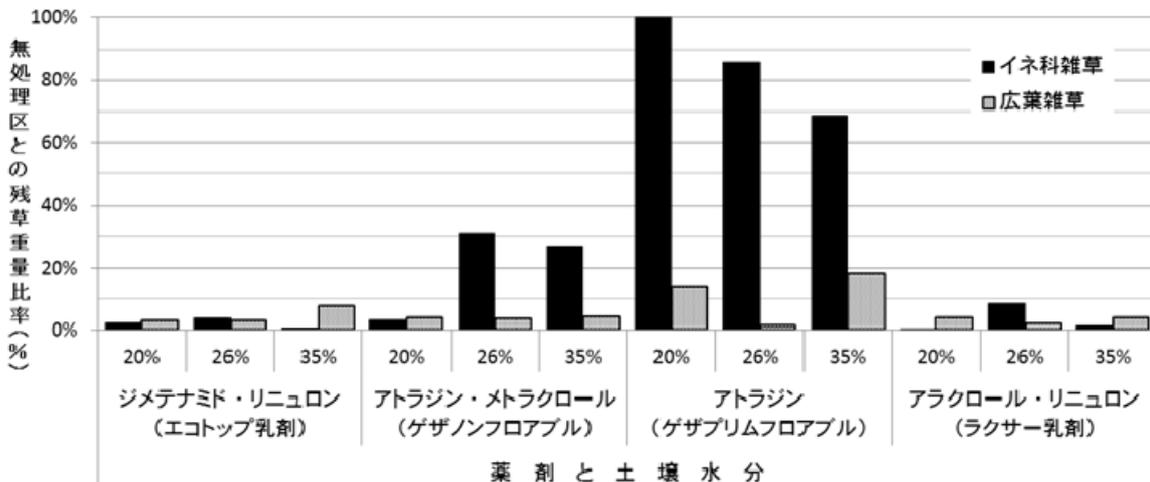


図1 各薬剤・土壌水分別の無処理区との残草重量比率

表1 各薬剤処理時期別の無処理区との残草重量比率

除草剤	処理時期 (トウモロコシ葉齢)	イネ科計	広葉計	総計
アトラジン・ メトラクロール (ゲザノンフロアブル)	出芽前	37.9% (中)	1.1% (極大)	13.1%
	2葉期	109.1%	6.3% (極大)	13.6%
	3葉期	291.8%	1.2% (極大)	39.0%
	4葉期	271.3%	0.8% (極大)	30.8%
アトラジン (ゲザプリムフロアブル)	出芽前	86.0%	1.3% (極大)	19.0%
	2葉期	268.8%	19.6% (大)	75.7%
	3葉期	373.3%	10.9% (大)	73.0%
	4葉期	392.3%	15.6% (大)	78.3%

【2 留意事項】

- (1)試験圃場の土質は黒ボク土です。
- (2)イネ科雑草主体の圃場では、ジメテナミド・リニュロン（エコトップ乳剤）またはアラクロール・リニュロン（ラクサー乳剤）を土壤処理した後、さらにイネ科雑草が発生した場合には、イネ科雑草に効果のある茎葉除草剤を使用しましょう。

【3 適応対象】

県下全域

担当研究室

畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室 〒020-0173 滝沢村滝沢字砂込 737-1 TEL. 019-688-7317 FAX. 019-688-4327